

中部（7）山田中学校 適正化方策案の検証評価（事務局評価案）

方策案	中部 P (中宮中と統合)	中部 Q (第一中と統合)	中部 R (招提中と統合)
	ア (統合校：中宮中)	ア (統合校：第一中)	ア (統合校：招提中)
特に有効な点		<ul style="list-style-type: none"> ・保有教室に余裕があり増築の必要がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保有教室に余裕があり増築の必要がない。
課題点など	<ul style="list-style-type: none"> ・保有教室が 26 教室しかなく、増築等が必要。(3 教室程度) ・やや通学距離が長い地区がある。(2.8km) ・現状も同様であるが、多くの生徒が交通量の多い道路(杉田口禁野線)を横断して通学しなければならない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 35 年度まで大規模校となってしまう。 ・山田中と第一中の間には小松製作所や関西外大の敷地があり、迂回する必要がある。また、その際に一部の生徒は中宮中校区を通ることになる。 ・やや通学距離が長い地区がある。(2.7km) ・現状も同様であるが、一部の生徒が交通量の多い道路(杉田口禁野線)を横断して通学しなければならない。 ・校区が広く、中宮中校区が割り込むような校区形状となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状も同様であるが、一部の生徒が交通量の多い道路(杉田口禁野線)を横断して通学しなければならない。 ・山田中と招提中の間には穂谷川が通っており、5本の橋が架かっているものの、地域を分断している。 ・一部の橋周辺の堤防は、人通りが少ない状況がある。
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・中部Q案は、当分の間、大規模校となることや通学路における課題がある。 ・中部P案は、増築が必要となることや、通学距離の課題がある。 ・中部R案は、地形上の課題や防犯上の課題があるものの、通学距離や保有教室数の面から、山田中学校の統合方策は中部Rーア案が総合的に最善策であると考えられる。 		